

今日のトピック 世界の「投信マネー」(2020年1月)
リスク・オフで「債券」への流入が加速
1月の流入超過額は一段と増加し、かつ、分散も進む

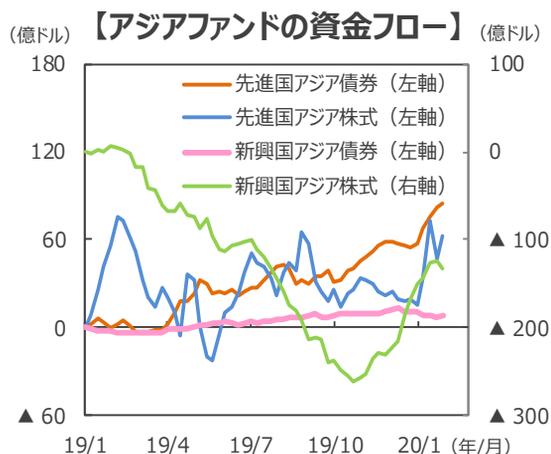
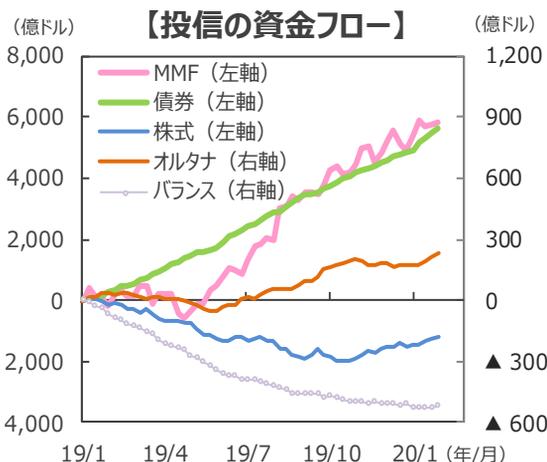
- 1月の投信マネーは、第4週に、新型肺炎によるアジア経済の景気減速懸念を受け、「米ハイ・イールド債」や「新興国アジア」の株式・債券ファンドが流出超となりましたが、月間では1,000億ドル台の流入超過が続きました。中心は「債券」ですが、「株式」、「MMF」に加え、「オルタナ」や「バランス」にも流入しました。投信マネーの流入超過額は全体で+1,414億ドル（前月+1,127億ドル）でした。内訳は「MMF」が+378億ドル（同+601億ドル）と減少した半面、「債券」が+722億ドル（同+420億ドル）と2017年以降で最大の流入超となりました。また、「株式」が+243億ドル（同+132億ドル）と流入超過額が拡大し、「オルタナ」が+59億ドル（同▲5億ドル）、「バランス」が+11億ドル（同▲20億ドル）と、投資先も分散する傾向を示しました。

「アジア」からの極端な流出は確認されず

- 債券ファンドは、「先進国」が+635億ドル（同+370億ドル）と13カ月連続の流入超です。「北米」の+474億ドル（同+290億ドル）を中心に、「グローバル」が+138億ドル（同+24億ドル）でした。「新興国」は+87億ドル（同+49億ドル）でした。アジアは、日本を含む「先進国アジア」が▲3億ドル（同+860万ドル）、「新興国アジア」が+27億ドル（同▲1億ドル）と月ベースで見ると、大きな流出には至りませんでした。
- 株式ファンドは、「先進国」が+152億ドル（同+4億ドル）と「グローバル」の+223億ドル（同+28億ドル）を中心に増加しました。「新興国」は+92億ドル（同+128億ドル）と減少したものの流入超を維持しました。アジアは日本を含む「先進国アジア」が+46億ドル（同▲6億ドル）、「新興国アジア」は1月最終週に▲9億ドルの流出超でしたが、月間では+18億ドル（同+80億ドル）でした。

潤沢な流動性と低金利環境の継続が支え

- 新型肺炎の拡散リスクは依然燻っていますが、中国が新型肺炎の感染封じ込め対策を行っていることなどを背景に、悲観的な見通しはやや緩和され始めました。潤沢な流動性と低金利環境は継続する見通しであり、市場は次第に落ち着きを取り戻すと期待されます。



- (注1) EPFRグローバル：米国に本社を置く金融商品の調査会社。2019年12月末現在38.2兆ドル規模の世界のファンドの資金フローデータを持つ。データは2019年1月2日～2020年1月29日。週次ベース。2019年1月からの累計。
- (注2) 「新興国アジア」は、新興アジア全体に投資するファンドのほか、中国、インド、韓国、台湾、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、パキスタン、バングラデシュに投資するファンド。
- (出所) EPFRグローバルのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**ここも
チェック!**
2020年1月30日 FRBは政策金利を据え置き(2020年1月) 新型肺炎の影響を警戒
2020年1月28日 2020年2月の注目イベント

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。